

健康  
アドバイス

鼠径ヘルニアについて

ツカザキ病院 外科 医長 濱田 徹

太ももや足の付け根付近（鼠径部）に柔らかい膨らみはありませんか？ひょっとしたら、鼠径（そけい）ヘルニアかもしれません。昔から脱腸と呼ばれている鼠径ヘルニアは足の付け根付近が膨らむ病気です。この病気の歴史は古く人類の直立二足歩行とともに始まったと考えられており、紀元前の古代エジプトの歴史書にも記載されています。今回は外科の患者さんのなかでも比較的多い鼠径ヘルニアの原因や症状、治療法について説明させていただきます。

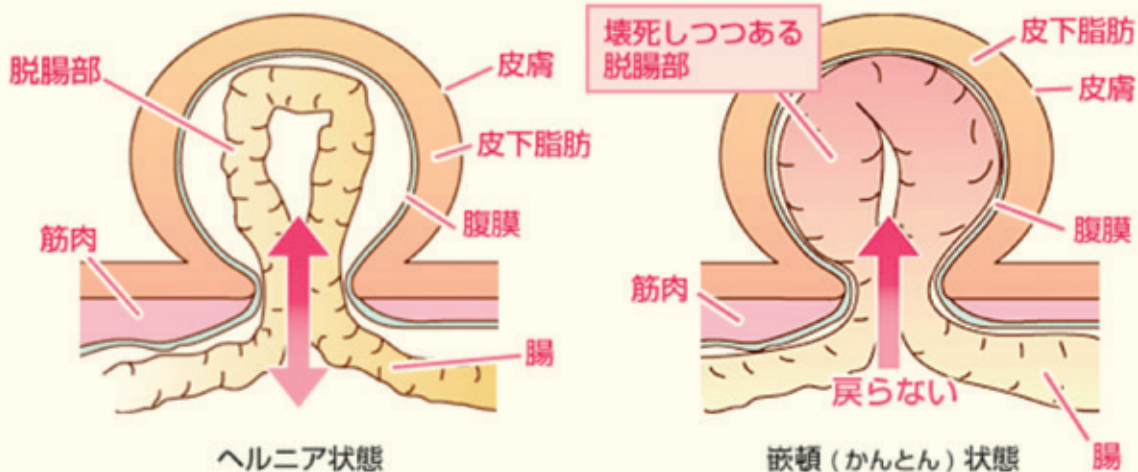
\* 鼠径ヘルニアの原因 \*

ヘルニアとは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態を一般的にいいます。鼠径ヘルニアとは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が多くの場合、鼠径部の筋膜の間でできた穴から皮膚の下に出てくる病気で乳幼児から高齢者まで幅広く起こり得ます。乳幼児の場合は、先天性の原因がほとんどですが、成人の場合は鼠径部周辺の組織が弱くなるのが原因です。中年以上の男性に多く見られ、中でも立

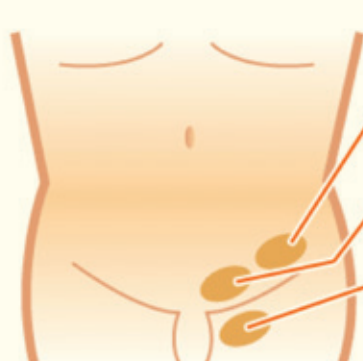
ち仕事をしている人や便秘症・肥満気味の人が多いと言われてしています。

\* 鼠径ヘルニアの症状 \*

最初は太ももや足の付け根に柔らかいふくらみが出てきます。この段階だとふくらみは仰向きや手で押さえると容易に引っ込みます。特に痛みは感じないので軽く考えがちでヘルニアだと気づかない人もいます。ヘルニアが大きくなり気づく頃には痛みと違和感があります。こうなってくると「長時間立っているのが辛い」「息苦しい」「時々、鋭い痛みが走る」「お腹が突っ張っている感じが常にする」といった症状が出てきます。またヘルニアを放置して大きくなってきた場合、飛び出た脱腸部分が筋肉でしめつけられ戻らなくなった状態になってしまいます。この状態を嵌頓（かんとん）状態といいます。腸が嵌頓を起こすと腸の中を食べ物が出ていけなくなってしまう腸閉塞を起こします。またしめつけられた腸に血液が流れなくなって腸の組織が死んでしまうと命に関わるため緊急手術になる場合もあります。



**\* 鼠径ヘルニアの種類 \***



**外そけいヘルニア**

幼児と成人に多いヘルニアです。腹壁の外側に出てきます。

**内そけいヘルニア**

中年以降の男性に多いヘルニアです。そけい部後方の腹壁を腸が突き破り、ヘルニアが起こります。

**大腿ヘルニア**

女性に多いヘルニアです。そけい部の下、足への血管の脇へはみ出すヘルニアです。最も嵌頓を起こしやすいので注意が必要です。

**\* 鼠径ヘルニアの治療 \***

鼠径ヘルニアは薬や運動などで自然に治ることとはなく、治療としては手術療法以外にはありません。ヘルニアバンド（脱腸帯）を使っておられる方も時々いますが、治療ではなく押さえているだけです。バンドを外すとヘルニアとなり飛び出してきてしまうので対症療法にしかすぎません。

鼠径ヘルニアの手術はヘルニアの穴を確認し、出ている腸管を戻して、その穴を閉鎖して補強するのが基本です。以前は周辺の組織を寄せて補強していましたが、もともと組織が弱くなった部分なので補強するには適しておらず、そのため再発する危険性も高くなり、また周辺の組織を寄せてくるため術後に突っ張り感を感じやすくなっていました。

そこで最近では人工の補強シート（メッシュ）を使って修復する手術が主流になっています。この方法は従来の方法と比較して術後の突っ張り感が少なくなり、再発率も低下しています。この補強シート（メッシュ）を入れる手術方法

には大きく分けて2種類あり、鼠径部を約5～6cm皮膚切開して直接処置する前方切開法と手術用の細かいカメラを臍（へそ）から挿入して左右下腹部の2か所の小さな穴から処置を行う腹腔鏡法に分けられます。腹腔鏡法は前方切開法と比べて鼠径ヘルニアの種類診断が確実で、傷あとも小さく術後の痛みも少ないため当院でも積極的にこの方法を採用しています。ただ腹腔鏡法は全身麻酔で手術を行う必要があり、手術時間が長くなることもありますので患者さんの既往症などによっては適切でない場合もあります。入院期間は手術前日に入院していただいて出血や感染等の合併症がなければ3～4日程度で早期の社会復帰が可能です。

この記事を読まれてもし鼠径ヘルニアかなと思ったら、ぜひ早めに当院外科を受診してください。

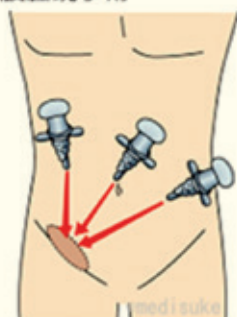


人工の補強用シート（メッシュ）



腹腔内画像

**腹腔鏡手術**



**テレビモニターへ**

